



特定非営利活動法人

アムダ

ソマリア難民 乳幼児の栄養改善プロジェクト（ジブチ共和国）

事業実施期間

2007年4月1日～2007年12月31日

事業実施場所

ジブチ共和国 アリサビエ地区 アリアデキャンプ

共催、後援、協力団体

国連難民高等弁務官（UNHCR）、世界食糧計画（WFP）、ジブチ政府難民福祉支援機関（ONARS）

事業内容

①動員対象者人数

本事業は、上記難民キャンプにおいて栄養不良状態にある乳幼児（身長・体重比が平均値の80%以下）を対象としており、その数は月50～70名に上る。この中には、厳しい栄養失調状態にある乳幼児（身長・体重比が平均値の70%以下）も含まれている。

②活動内容及び現況報告

事業申請内容に従い、以下の活動に取り組んだ。

(1)栄養調査

アリアデ難民キャンプにおいて乳幼児約1,000名に対する栄養調査を実施した結果、（乳幼児合計：約1,200～1,300名に対して）77名が栄養不良児・栄養失調児であり、19名が要再検査（栄養不良の可能性あり）であった。本調査結果を踏まえつつ、下記の活動を行った。

(2)初期診断

現在、AMDAが運営する難民キャンプの診療所には医師が1名、看護師が3名常駐しており、平日は訪れる患者に対して無料の診察・治療活動を行っている。栄養専門家により、医師や看護師に対するトレーニングを行い、これによって、看護師の問診や医師の診察により栄養不良状態もしくは厳しい栄養失調状態にあると判断された乳幼児が、栄養プログラムを実施するフィーディング・センター（Feeding Center：栄養補給所）と呼ばれる施設へ早急に転送される仕組みが整った。また、転送シ



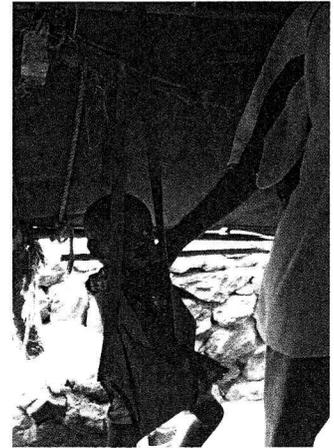
乳幼児の身長測定

ステムが強化されたことにより、栄養不良にある乳幼児が一層厳しい栄養失調状態に陥ることを未然に防げるようになった。

(3)継続的な成長・基礎健康指標のモニタリング

上記栄養専門家により、フィーディング・センターのスタッフに対し集中的なトレーニングが行われ、栄養プログラム運営のためのマニュアルが作成された。それを基盤とし

て、栄養プログラムの効率性や有効性が大幅に改善された。これにより、栄養プログラムに登録された乳幼児が母親とともに週に1回センターを訪れ、センタースタッフが彼らの身長・体重を測定し、簡素な健康診断を行い、その推移を記録することがルーティンワークとして継続されるようになった。現地栄養活動調整員がこうした栄養プログラムの活動を調整している。

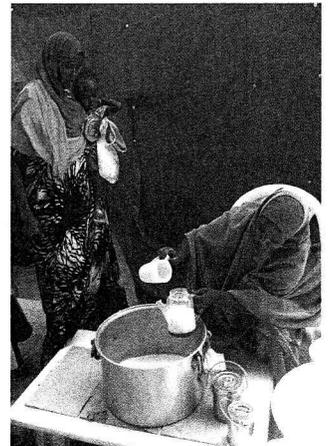


乳幼児の体重測定

(4)補助栄養強化乳剤（F-100）及び補助栄養食材の提供

上記活動(3)に伴い、週に1回訪れる乳幼児に対し、補助栄養強化乳剤及び補助栄養食材を配給し、彼らの健全な発育を促進している。補助栄養強化乳剤はDSM（ドライ・スキム・ミルク）と呼ばれるものをUNHCRから入手し、センターにおいてスタッフ観察の下、一日に3回乳幼児に飲ませている。また、厳しい栄養失調状態にある乳幼児には、特にF-100と呼ばれる補助栄養強化乳剤を提供し、センターにおいて数日間様子を見ながら、必要に応じ点滴などによる治療も行っている。補助栄養食材としては、WHO（世界保健機関）のガイドラインに従い、WFPから定期的に配布されるCSB（トウモロコシ・大豆混合粉）に植物油と砂糖を混ぜたものを一週間分母親に提供し、乳幼児に適量与えるよう指導している。尚、補助栄養強化乳剤、補助栄養食材配給に伴い、センタースタッフが衛生管理を徹底して行えるよう、食品衛生に関するトレーニングも実施した。難民キャンプ内には深井戸を水源とした水栓があるが、センター内でその水を用いる際には必ず煮沸しており、使用した食器も煮沸消毒している。

今後は、(1)～(4)の活動を一層強化するとともに、(5)栄養食材の作成・活用、(6)母親への栄養・保健教育の活動を推進していく予定である。



補助栄養強化乳剤を配給するスタッフ